

ひまわり

Vol.34
2022.9.1

特集

男女共同参画社会の実現に向けて
アンコンシャス・バイアス
(無意識の思い込み・偏見)を
知っていますか？



写真「ひまわり」 小池 清さん(籠原南)撮影

第43回フォーラムくまがや2022のお知らせ



守屋 智敬 氏

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所
代表理事

1970年大阪府生まれ。神戸大学大学院修士課程修了後、都市計画事務所、コンサルティング会社を経て、2015年、株式会社モリヤコンサルティングを設立。管理職や経営層を中心に8万人以上のリーダーを育成。

2018年、ひとりひとりがイキイキする社会をめざし、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所

を設立。アンコンシャス・バイアス研修の受講者はこれまでに5万人をこえ、育成した「認定トレーナー」は、100名をこえる。2021年より、小・中学校でのアンコンシャス・バイアス授業をスタート。様々な社会課題の解決にも繋がるの思いから、アンコンシャス・バイアスを切り口に、「がん治療と仕事の両立」「防災・減災」をテーマに届ける活動も行っている。近著に『アンコンシャス・バイアス』マネジメント(かんき出版)』ほか多数。

●講演 守屋 智敬 氏
(一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事)

『アンコンシャス・バイアスを知る、気づく、対処する
～ひとりひとりがイキイキと暮らすために～』

●第17回熊谷市男女共同参画推進表彰
11月12日(土) 午後1時から(入場無料)

熊谷市立文化センター文化会館
(熊谷市桜木町二丁目33番地2)

※手話通訳あり ※未就学児の入場不可

【入場申込み】電話・FAXまたはEメールで下記へ

氏名・住所・電話番号・入場人数をご連絡ください。
申込者が200人(定員)になり次第、締め切ります。

※先着順に入場券を郵送します。

※男女共同参画室の窓口でお申込みの際は、受付時に入場券をお渡します。
熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」

電話:048-599-0011 FAX:048-599-0012

Eメール:市ホームページからお申し込みください。

共催:熊谷市・くまがや共同参画を進める会

コロナ対策
について

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容を変更する場合があります。

「アンコンシャス・バイアス」を知っていますか？

「男らしく」「女らしく」とか思っちゃうかも



アンコンシャス・バイアスとは無意識の偏ったモノの見方のことです。「無意識の思いこみ」「無意識の偏見」とも表現されます。アンコンシャス・バイアスは日常にあふれていて、誰にでもあるものです。私たちは、過去の経験や見聞きしてきたことに影響を受けているため、同じものを見ていても、一人ひとり、意見が異なるということがあるのです。



「普通はこうだ」とか言ってるかも

血液型で相手の性格を想像しちゃうな

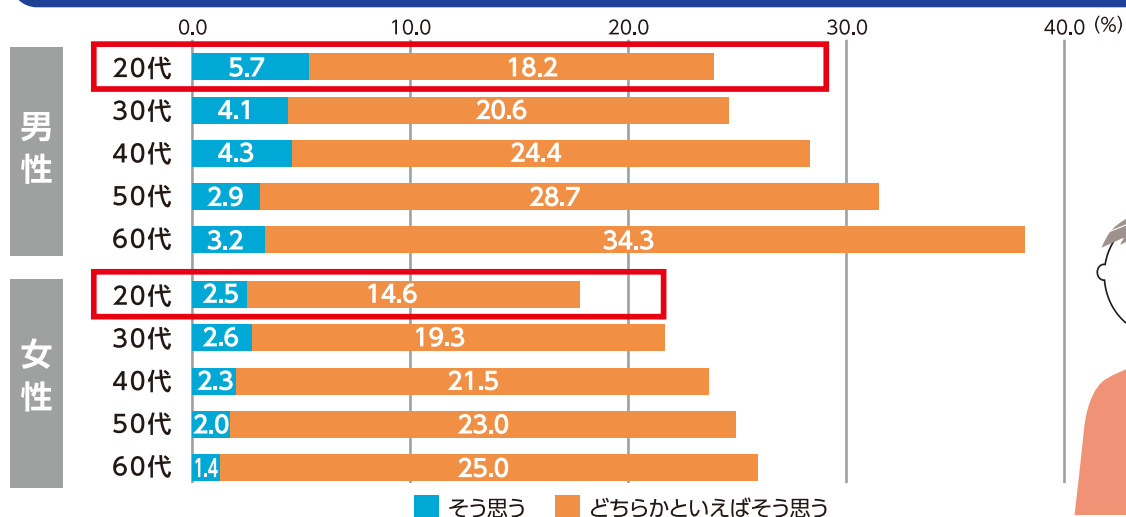
今、なぜアンコンシャス・バイアス？

アンコンシャス・バイアスという言葉が、日本で聞かれるようになったのは、つい最近のことです。アメリカの大手IT企業が、アンコンシャス・バイアスの研修を始めたことで、注目されるようになりました。「女性(あるいは男性)にこの仕事は無理」など、偏った思い込み(アンコンシャス・バイアス)により、活躍の場を狭めている場合はありませんか？性別・年齢・国籍・宗教・障害・貧富の差や考え方に問わず、多様な人たちが個々の力を発揮できるよう、アンコンシャス・バイアスに気づき対応することが大切だと考えられています。

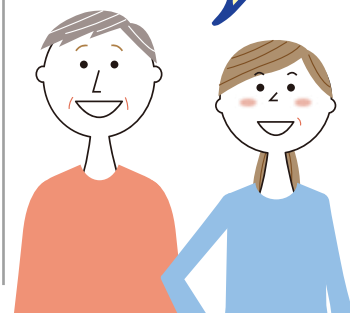
また、政治家や企業のリーダーの失言、ハラスメント行為、SNS上での発言が炎上するといった事象も、個人のアンコンシャス・バイアスが影響していることが多いのです。アンコンシャス・バイアスを知ることによって無意識に他人を傷つける行為を減らすことができます。現在、主に企業が研修や勉強会を行っています。教育の現場や社会生活でも生かされると関心が高まっています。

内閣府男女共同参画局が、令和3年度に、「性別による無意識の思いこみに関する調査」を実施しました。いくつかの項目の結果を見てみましょう。

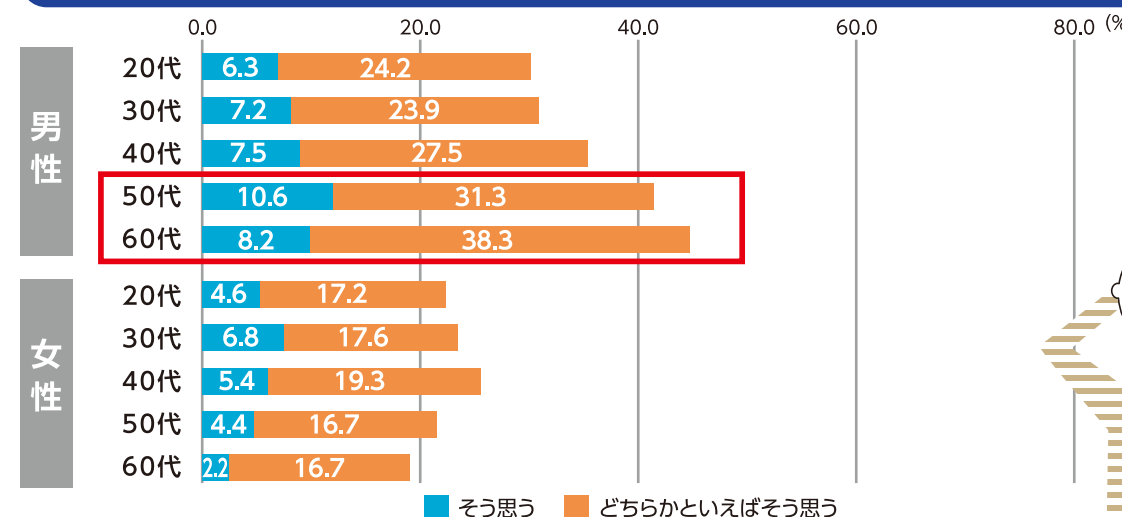
家事・育児は女性がするべきだ



共働きが当たり前になりつつある20代には違和感があるのかもね



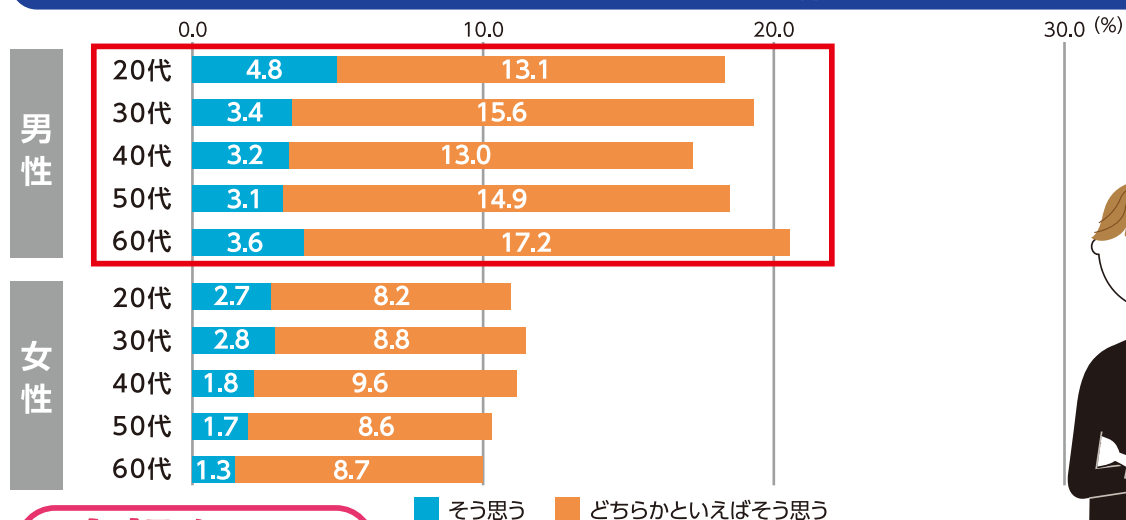
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ



女性はあんまりこだわってないのかな



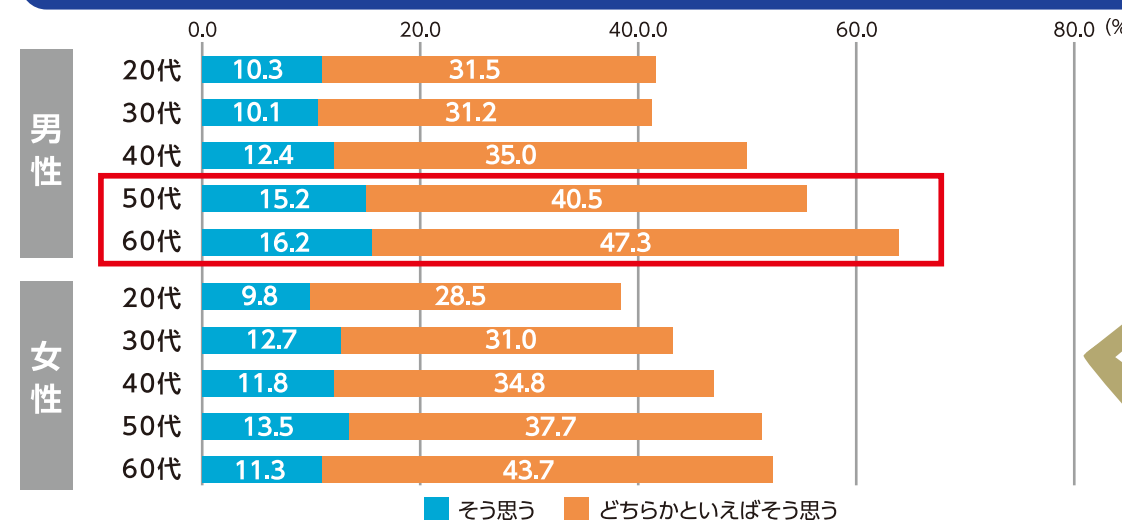
女性の上司には抵抗がある



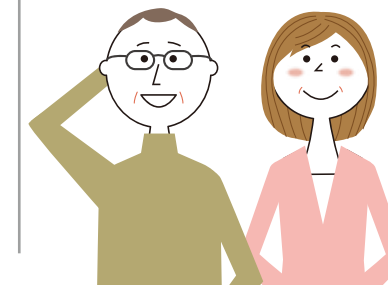
男性と女性では考え方に差がみえるね



男性は仕事をして家計を支えるべきだ



年代で考え方に違いがみえるね



大切なのは

知って・気づいて・意識する

アンコンシャス・バイアスは誰にでもあるもので、良し悪しはありません。『これは私のアンコンシャス・バイアス?』と気づくことで、自分や相手、出来事に対する押しつけや決めつけをせず、一人ひとりの考えを尊重することができます。意識することで、人や物事に対するとらえ方に変化がおきると考えられています。

これってアンコン?



輝いています！

街で出あった
いきいきさんを
ご紹介します

「子どもは宝石の原石」



若者の居場所「Uncut Gems熊谷」
～NPO法人 若者支援ひろば三愛～
代表 林美江さん

週に3日、午後になると、いろいろな事情をかかえた子どもたちが集まってくる。ある生徒は試験の勉強を、また、ある生徒は楽しくゲームをしたり、マンガを読んだり、みんな自由にリラックスして時間を過ごします。「Uncut Gems熊谷」は、「学校でも自宅でもない第三の居場所」です。学校へ行けなかったり、帰宅しても家に居場所が無かったり、家でも夜遅くまで一人で過ごしているため、なかなか食事を食べられなかったり、様々な理由で、通ってきている子どもたち。皆で食事をいただきます。そして、ボランティアの大学生たちが、勉強も遊びも付き合ってくれています。「Uncut Gems」とは「宝石の原石」とのこと。自分の本当の輝きに気づき、自分の価値を見出だしてほしい、という願いを込めて名付けられました。無料で利用できるこの「ひろば」を開いたのは、臨床心理士と公認心理師の資格を持つ、



林美江さん。自分の子育てが一段落したときに、居場所の無い子どもたちに何かできないか？とこの団体を立ち上げました。居場所の提供と学習支援、そして食事の提供が主な活動内容です。食事に関しては、通ってくる子どもたちの食の好みやアレルギー対応なども考慮して調理をしています。市内の「熊谷なないろ食堂(子ども食堂)」とも協力しています。「コロナ禍になり、経済的に苦しい家庭がますます増えてきています。塾(学習支援)として通ってもらったり、栄養面を考えた食事を提供する場所が今まで以上に必要となります」と語る林さん。施設の拡充や活動の拡大など、これからも注目していきたい「ひろば」になっています。

▲Uncut Gems熊谷の雰囲気▶



<https://ibasyo31.wixsite.com/uncut-gems-kumagaya>

ひとりで悩んでいるあなた、一度相談してみませんか？

配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力(DV)に悩んでいる方、自分が我慢すればと思わずに、相談してください。どんな小さなことでも、相談員がお聴きし、一緒に考えます。電話相談は匿名でもお受けしていますので、まずはお電話ください。



詳しくはこちら

◆ハートピア相談室 ☎048-599-0015

相談名	相談日	時間
電話相談・面接相談 (予約不要)	月～金曜日、第1・第3土曜日 (祝日、年末年始を除く)	9:00～17:15
弁護士による相談 (要予約)	隔月1回(偶数月)	10:00～11:30
臨床心理士による相談 (要予約)	毎月1回 第4金曜日 (祝日の場合は変更)	9:00～16:00
保健師による相談 (要予約)	毎月2回 第2・第3水曜日 (祝日を除く)	13:30～15:30

(各相談とも、無料・秘密厳守)

「ひまわり」編集員公募のお知らせ

本紙「女(ひと)と男(ひと)の情報紙ひまわり」の編集員を募集します。
募集人員 2人
応募資格 市内在住の18歳以上の方で、男女共同参画に関心があり、左記の活動ができる方
活動内容 ①編集員会議(毎月3回程度・平日・2時間程度) ②取材活動(随時) ③原稿の作成
委嘱期間 2年間
応募方法 応募動機と男女共同参画の推進に向けた考えを、800字程度にまとめ、住所・氏名・生年月日・職業・電話番号を明記し、10月7日(金)までに熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」へ直接ご提出ください。

募集

★表紙やカットとして掲載は「ひまわり」の絵・写真・その他の作品を募集します。
★輝いています！(市内で活躍されている方の紹介)のコーナーに登場して下さる方を募集しています(自薦・他薦は問いません)。
※西募集とも、応募多数等により掲載にならない場合がありますが、ご承知ください。
★本紙への「意見」や「感想」をお寄せください。
【応募・問い合わせ】
〒360-0037
熊谷市筑波三丁目202番地 ティアラ21(4階)
熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」
TEL 048-599-0011
FAX 048-599-0012

編集後記

特集でも触れた通り、アンコンシヤス、バイアスとは、潜在的に持っている思い込みの事です。育つ環境、所属する集団の中で無意識のうちに刻み込まれ、既成概念、固定観念となっていくものです。程度の差はあれ誰もが持っているのです。私自身も無意識の思い込みがあると思いますので、記事で学んだ事を活かしていきたいと思えます。今回の特集記事をきっかけに正しく理解する事で、誰もが生きやすい社会の基礎になります。これは昨年ひまわり第32号でも取り扱ったSDGsの目標である「質の高い教育」と「ジェンダー平等」にも結びついていきます。興味を持たれた方は是非フォローラムくまがや2022に足を運んでみてはいかがでしょうか。(吉澤 啓介)

〔編集員〕
秋元 留美子 井上 紀子 坂東 輝美
吉澤 啓介 吉田 知重子

